

# ひだまり

ISO9001:2015 認証機関



日本認知症ケア学会認定施設

岡山ひだまりの里病院 広報紙  
第123号

2024年5月発行

発行責任者 藤田文博



2階病棟、ベランダより

## 目が輝く 春らんまん

春爛漫、桜の木の下でのお花見は、老若男女問わず日本人の人々に愛される風物詩です。  
4月初旬、当院の中庭では桜や桃の花に加え、チューリップやネモフィラ、菜の花など様々な花が見ごろを迎えました。この機会を見逃さず、作業療法ではお花見を実施しました。チューリップやネモフィラは、作業療法の園芸活動で患者さんと植えたものです。



中庭より

中庭に入り花々を見た瞬間に自然と出る歓声。特に印象的だったのは、普段控え目で口数が少ない女性が中庭に入ると思わず「きれいね、わあ、すごいねえ」と目を輝かせていたことです。病棟とは違った一面を垣間見れ、とてもうれしくなりました。お花見は1週間続き、多くの患者さんに見ていただきました。  
桜の季節が終わりを告げますが、新緑の訪れを感じます。季節や自然と触れ合える活動を、作業療法では今後もしていきます。

作業療法士 持田 顕





## 2023年度 看護部事例発表会

3月5日、院内で看護部事例発表会を開催しました。昨年までは感染対策のためポスターでの発表でした。実に3年ぶりの対面での事例発表会です。

看護部が現在行っている「短期集中治療」「看取り」「BPSDを伴った患者に対する看護・ケア」等の取り組みを中心に、各病棟から7演題を発表してもらいました。自分たちの行った看護・ケアを見つめなおし、言語化し振り返る、とても良い機会となりました。この度の学びを今後の看護・ケアに繋げていきます。

今回は7演題のひとつ、看取り事例を抜粋にてご紹介します。

総師長 國分 祐子

### ★ 演題 ★

1. 拒否のある患者に寄り添うケアを目指して  
～チームアプローチからみえてきたもの～  
2階病棟
2. 精神症状が軽減することで自分らしく  
生きることができた1例  
～内服困難な患者に環境調整や関わりを  
通して改善した様子～ 3階病棟
3. 認知症専門病院として選ばれる病院になる  
～短期集中治療チームとして自宅退院に  
向けた実際の取り組み～ 4階病棟
4. イメージマップから見えた看護  
4階病棟
5. 開花～アクティビティケア 2階病棟
6. 家族の思いに寄り添った  
看取り看護・介護 3階病棟
7. 家族により余韻を残す看取りケア  
4階病棟

### ～看護部事例発表会 演題より～

## 家族により余韻を残す看取りケア 4階病棟 介護福祉士 森安 博美

### はじめに

高齢者ひとりひとりには、これまで培ってきた「人生史」があり、またそこに寄り添ってきた多くの家族が存在する。家族の思いをくみ取り、その思いをケアに反映していくことで、患者にとっても家族にとっても、より良い余韻を残せるのではないかと考え、チームで取り組んだ。

### ケアの実際

1. A氏の個性や生き方を大切にする
2. 微弱な“サイン”をキャッチする
3. A氏の家族の心情を否定することなく聴く
4. A氏の家族により余韻を残すケア



チームカンファレンスで余命わずかなA氏がずっと自宅に帰りたがっていた話をし、本人の思いを叶えられないか相談したことがスタートであった。自発的な発語は見られないA氏だが、時折のジェスチャーでスタッフの言葉は理解できているようだった。わずかな意思表示があることから、外出の検討をした。事前に訪問し、A氏の残された体力と手段を綿密に考え準備を進め、そして家族にもA氏の思いに全力で寄り添ってもらえた。1時間ほどの外出だったがA氏や家族により余韻を残せた。

### おわりに

今後、看取りの患者さんに対してもわずかなサインを読み取れるよう、日常業務の中で本人との会話やスタッフからの情報、面会の時には家族の思いを知ること、家族と話しをする事はとても大切だと思った。ご本人、ご家族に寄り添えるような看護・介護を提供していきたい。(本事例の掲載にあたってはご家族の承諾を得ています)



自宅への進入路の確認

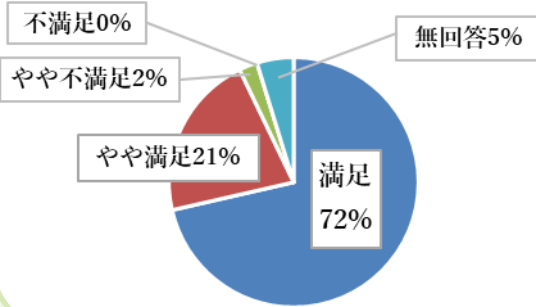


負担の少ない移動手段  
の確認

## ★デイケアの満足度調査★

2023年度、デイケア利用者さまの満足度調査の結果がでました。昨年と比較し、大きく変化のあった項目を抜粋してお知らせいたします。他の項目については、昨年との差はほぼなく、高い評価をいただきました。

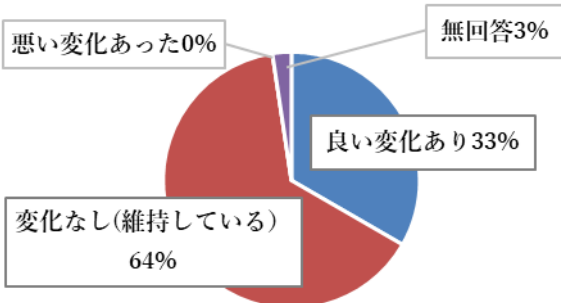
### プログラムの内容に満足されていますか



昨年との比較で『満足』が5%増え、『やや不満足』が2%（昨年0%）となりました。

自由記載欄に『散歩』に関するご質問を複数いただきました。以前は活発に行っていた外への散歩ですが、利用者様の歩行機能の差も大きく、皆での散歩はできておりません。少人数や個別で「歩く」機会を持つようにしています。また、現在行っている午前午後の体操やストレッチに加え、歩行機能維持につながる活動を検討しています。

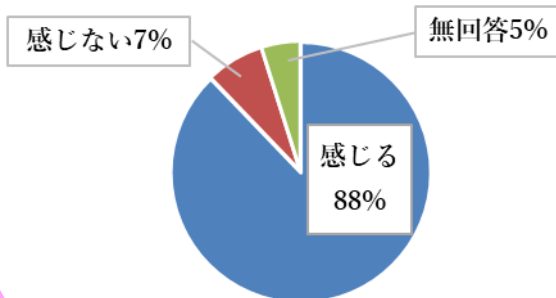
### ここ1年で当デイケアを利用して何か変化がありましたか



昨年との比較で『良い変化あり』が15%増え、『変化なし(維持)』が7%減りました。

「表情が明るくなった。朝起きて出かけないといけないという習慣がついた」「作った作品を自慢したり、お友達の生けた生花の写真を撮って来ました」「気持ちが安定してきたと思います」など、状態が安定したという評価をたくさんいただきました。認知症は進行していく疾患ではありますが、利用者様のできることの維持・精神面の安定のためにリハビリや活動の提供をより一層研鑽していきます。

### 当デイケアのサービスに専門性を感じますか



昨年との比較で『感じる』が12%増え、『感じない』が2%増えました。

認知症の疾患・症状についての学習、認知症の人の置かれている状況や心理状態について理解を深める学習を日常的に行っております。

今後も専門知識の獲得とケア技術の維持・向上に努めていきます。またお悩みや困りごとに対応できる力量を身につけていけるよう、専門性も磨いていきます。

ご家族の皆さまからのたくさんのご意見、ありがとうございます。職員一同、自分たちの日々の姿を振り返る機会となり、またあたたかいお言葉もあり励まされました。今後も当デイケアへの忌憚のないご意見をいただけますよう、よろしくお願いいたします。

## 『新入職員研修』

4月1日からの3日間、公益財団法人 林精神医学研究所では新入職員研修を行いました。中途入職者含めると34名が参加。岡山ひだまりの里病院からも10名が参加。研修は岡山市中区浜にある「林病院」です。

初日、林病院の受付に集まり研修会場の「ひまわりホール」に移動する際、先輩職員から花束が手渡され拍手で迎られます。その後には先輩職員から「ひとりぼっちの青年をつくらない」ための活動が紹介され、「マシュマロチャレンジ」というチームビルディングのゲームで大盛り上がり。社会人経験のある新入職員さんから「こんなにあたたかく歓迎してもらったのは初めてで感動しました」との声をいただきました。

医師からの講演、手洗いなどの実習、グループワークなど3日間の研修は盛りだくさん。聞くだけではなく、考えてもらい、そこから交流する工夫がされており、同期のつながりもできたと思います。

公益財団法人 林精神医学研究所 本部職員育成課 池橋 陽子



### ★ 3日間の研修内容の一部

- ・ 辞令授与式・理事長挨拶
- ・ 「林財団の歴史・事業所紹介」
- ・ 「接遇」
- ・ 「医療安全」
- ・ 「感染対策」
- ・ 「岡山ひだまりの里病院のとりくみ」
- ・ 「高齢者医療」
- ・ 「メンタルヘルス」
- ・ 「障害とともに生きる」
- ・ 「精神保健福祉法」
- ・ 「精神医療」

## お知らせ

### 『車いすの寄贈』 ありがとうございます

岡山市中区浜にある『つばさ薬局』様より、『車いす』を寄贈していただきました。この車いすは楽に座り続ける

ため、お尻・太ももにかかる体重を、背中・腰に分散させることができます。いただいてからすぐに、2階病棟で使わせてらせてもらっています。

ありがとうございました。



## ごあんない

### 岡山ひだまりの里病院

〒702-8012

岡山市南区北浦822-2

電話 086-267-2011 FAX 086-267-2013

ホームページ <https://hidamari.hayashi-dorin.or.jp/>

#### 《外来》

診療日時：月曜～金曜

9：00～12：30

\*予約制です。まずは  
お電話でご予約下さい

#### 《認知症デイケア》

実施時間：月曜～土曜

9：30～15：30

(日曜・年末年始はお休み)

相談員、看護師、作業療法士による訪問看護を行っています。詳しくはお電話下さい。

無料低額診療事業を実施しています。  
医療費でお困りの方はご相談ください。  
入院中の差額ベッド料はいただいております。